
報告者名	植田今日子	被調査者生年	未確認(男)
調査者名	植田今日子	被調査者属性	元マグロ船漁労長(屋号「西」に入る)
補助調査者	なし		

はじめに

唐桑半島の根もとにある「早馬神社」は半島先端にある「御崎神社」(さらに北には「賀茂神社」がありおもに旧小原木村を管轄する社となっている)とともに海を生業の場とする唐桑の人たちの航海安全と豊漁を祈願する場となってきた。

加えて、早馬神社の位置する宿(しゅく)地区には、唐桑の1,100の世帯を檀家として擁する「地福寺(じふくじ)」という曹洞宗の寺がある(2011年度の報告書に同寺が百箇日に執り行った「御施餓鬼」という供養儀礼について言及)。この地福寺と早馬神社の双方に縁のある家が宿でもっとも古い家と伝わる屋号「西(にし)」である。『唐桑町史』にも地福寺の開基は西の三浦家との記録があり、「三浦出羽守半兵衛」とあるおそらく三浦家最古の墓石には元和2年(1616)が没年となっている。

西の家は繰り返し唐桑の肝煎りを務めた旧家だったが、明治三陸大津波でも昭和三陸大津波でも流れなかった自宅が流され、家で代々保管されてきた400年前の文書も流失してしまう。唯一残されたのは神棚にあげてあった石ひとつであった(写真参照)。西の三浦家は400年以上ぶりに宿を去ることになった。以下はそんな西に婿として入り、漁労長をつとめていた話者の語りをそのまま抜粋し示した。

「西」家について

三浦出羽守半兵衛(みうらでわのかみはんべい)ってね、石にかかってんです。

その人が大阪夏の陣にいった人だっていうことだけどね、なんかサムライ大将でね。慶長年間の墓石っていうのは丸っこいんです。30センチぐらいの大きさかな。まん丸いやつでね。それがあのお墓にはあんですけどね。地福寺つつうお寺のすぐ脇にお墓があるもんで。

—お墓には普段いかない?

お盆にね、わたしらとくにね…、倒れて土ん中さ埋もれてたやつ掘って直したの。並べてね。その墓地入っていくとすぐのところです。そいつね、すぐ入ったとこすぐんとこ。それは古いやつがこっちの方にね、三浦家代々のお墓っていうのがあって。

—話者で何代目?

わかりませんねえ。あのねえ、あの地福寺がね、ここのうちの先祖がわたしの家のね、あの一、位牌がありますよね、その大っきいやつね、あったやつを、わたしの家で管理できないから地福寺に預けてあんのね。それで地福寺で祀ってあんだけど一、中興旦那って書かれてあんの。中興旦那ってねえ、ここに地福寺をつくってくれたって。

—西は地福寺にゆかりがある?

そう。あのねえ、前にね、今のね、今のお坊さんが寺の何代目かっていうの名乗ったときにね、永平寺からきたんですね。永平寺の一番偉い人がね、来たのね。そのときに地福寺に唐桑の古い家がみんな集まってね、ごちそうになったんです。そしたらわたし一番の上座っていうのかな。そこに座らされてね、呼ばれたのね。古館とか。

—宿浦だと他にどこの家が?

唐桑全部のね。宿ではわたしの家だけだね。

大般若・御施餓鬼について

－4月に大般若がありますけど西のお家はなにか役割が？

世話人つつうのが。大した役でねえのね。お寺に10人か8人だかね、総代つつうのがあんですね。その人たちがいちばん偉いのっさ。偉いつつうかね。地福寺をとりしきってるひとたち。そのひとたちに幹事の人たちがいて、わたしただ世話人ってね。大般若にはね、行ってあれー、みんな来ますからね、檀家の人たち。そのときにあの、なんてったかな、あれ書く役目なの。薄い木のあの、あれね、なんつうんだかなあ（報告者注：キョウボク [経木] あるいはカカンジョウ [河歓状]）。わたしたちね、その2日前からいって。3千枚書くもんでね。一軒にね、3枚やる。檀家が、先見こしてっからね。それ来る人たちが3千枚ね。いろいろ書いてあるんだけど、それ書いたやつを（御施餓鬼棚にくくりつけて、読経がおわったあとはずして）、そのうちのお墓にもってくだね。持って行ってそのまま。

－震災のあとに地福寺で御施餓鬼を見たが？

わたし震災のあと1年仙台いたのね。去年の4月に帰ってきて今年だけだからね。

－御施餓鬼って浜でやってたって聞いたんですけど。

海で亡くなった人ね。浜で亡くなったりなんかすつと、個々の浜で御施餓鬼した。

－棚を浜で組んだんですか？

そうそう。個々の部落の人たちで。漁に出てる人集まって。

－今は不幸があっても浜を祓わない？

今は大般若で大っきい舞台つくってまとめてやってしまうんだ。

－大般若のときはお経を繰ったりとか最近までやっている？

20人来んだね、気仙沼地区の曹洞宗の和尚さんたち来てね、その施餓鬼で大般若に祈禱をあげんだね。建物の中でやる。

－それだったらあんまり外にいとお経をくっているのは見えない？

外から見てる。檀家の人たちね、100人くらい来んのかな。朝から9時くらいからね、午前中くらいに終わってしまうんだね。

－お店が出たりする？

門のところにね、両端に。大したお店じゃないんだね。お参りに来た人たちが帰りに買ってくから。お菓子だの果物だのね、あと鯛焼きだの。

－縁日みたいな感じで、子どもも行った？

学校ね、休みになればくるけど。

－学校昔は大般若のとき休みだった？

忘れてしまった。

－早馬のお祭りより賑やかだった？

早馬神社の方が賑やかだねえ。地福寺に人が集まるのはそのときだけ。お墓に行くのは春彼岸、お盆、秋彼岸。彼岸のときは棚くまない。大般若のときだけ。晦日盆のときは棚くまない。ラツオク初盆のときだけやる。晦日盆のときに。昔はお盆の棚に飾ったものを果物だお菓子だ団子だのを盆舟をつくって100メートルぐらい泳いでもっていったのね。けどその舟をあの一、環境が悪くなるってそのうちなくなったの。流した舟は流しっぱなし。あとその舟をねえ、子どもたち休みだからウニやなんか潜ってとってその舟に積んだりなんかして。

－とったウニはどうする？

ウニは食べた、持って帰ってきて。お供えものもみんな食べたの。それ楽しみでねえ、それ帰ったあとにね、果物だのお菓子だのってそれ楽しみでねえ。

－舟はなにでできている？

麦わらでつくって。麦わらを舟のようなかたちにつくってね、あと脇に木の浮きをつけて。

－麦わらは麦をつくっていた？

どこの家でもつくってたから。

—西のうちの田畑は？

田畑なんにもなかったの。みんな手放してしまったの。うん、昔は肝いりやってた。「古館」と交代交代で。

話者の仕事について

—話者の仕事は？

18歳で船に乗った。最初は海上保安庁にいったのね。水産高校おわってね、ほんで3年くらいいたのね。そのころ給料安くてね、漁船の方が給料多かったからね、漁船に乗り換えた。乗ってる人は気仙沼の人もあれば、福島だの千葉県だの。漁はマグロ。

—1年にどれぐらいオカにいた？

1か月くらい。

—船上ではどんな仕事？

最初は船長やってたけどその上のね、漁労長やってたの。

—漁労長はいつまで？

55まで。ずっとマグロ船一筋。漁船に乗り換えたあとは船は違って出る人は気仙沼だった。乗組員が気仙沼だから、水揚げとかあと焼津とかで水揚げしてもあと気仙沼来んの。船整備したりして。ドックはかならず気仙沼。そのときは早いときにはね、漁場も近かったから3回か4回かは港につけてたけど、船が大きくなるとね。乗船した人数は17、8人。

—カツオ船だと「カシキ」だの「胴回り」だのと若い人の仕事があるがマグロ船は？

マグロ船は航海長いかカツオ船でしょっちゅう出入りするなら中学校出た人でもいいけど、航海長い船だと、食料の管理が入っちゃ。コックさんが乗る。

—あとは他にも役割持ってる人いる？

船長、機関長、通信長、甲板長、あとほれ、船長の下には一等航海士とか二等航海士とか、あと機関長のほかに一等機関士、二等機関士って。船に乗ってた人は岩手県の人もある唐桑、4、5人乗ってるけど唐桑はあちこち散らばってっから。

—ゴサンケイ（御参詣）は一緒に行っていた？

船が出たあとにね。わたしの家内が近くの神社に拝みにいった。唐桑だと早馬神社と御崎神社、あとねえ岩手県の竹駒神社だの、横田にある水天宮だの。わたしなんかもちろん早馬神社なんか行くけども。山形のねえ、あの鶴岡だっているのかなあ、あそこなあ。

帰ってきたときにタマリザキ(?)っていうとこ、山形さいたり仙台の奥のなんだっけ、定義山。いつもでねえけどたまにね、気が向いたときにね。山形とか定義山とか見えないけど、行くんだね。行ったからってたいしたことねえんだけどね。

—地福寺には漁の祈願には行かない？

あそこにね、入ったとこにね、地福寺のあの一。モンのまえに池があってあの一、お地蔵さんが立ってんだね（調査者注：正確には「魚籃観音」で「観音様」と呼ばれたり寺の池の中に立っているのだから「太公望」と呼ばれている）。あそこに拝んだりしてね。漁に行く前とか帰ってからとか。

—あれは海と関係がある？

海に関係あるんだね、あれ。

過去の津波について

—明治のときに津波がどこまで来たとか聞いたことある？

わたしの家のうしろに標識あったんです。昭和8年のときはここまで来た、明治の時にはここまで来た、チリ津波のときはここまで来たってね。その標識のとこより高上げてねえ、安全と思って家建てただけ。いま考えてみたらねえ、地震が発生したところが岩手県沖だったんだね。今回は金華山沖だったんだ。だからあんな標識

ね、明治のとき大丈夫だったらって、(そうとはかぎらない)。やっぱり北海道であつたら被害ねえしね。仙台沖とかね、金華山沖。

—明治が一番高いところ？その次が昭和、その次がチリ？

わたしのうち一番海岸にあつただけれど。明治のときも流れなかつたんだよね。昭和8年の津波のときも。チリ津波のときはね、あれなのねあの一、畳の床から1メートルぐらいあがつたんだ。

—チリ地震津波(1960年)が一番浸水したんですか。

だね。古文書はね、流れねかつたのね。明治にも昭和にも。でも今回流された。古文書はね、だってあれ400年前くらいの古文書があつただけれどそれが流れなかつた。家にあつたのそのまま。

—昔大学の先生がきて取りにこなかつたのか？

東北大学のね、文学部のなんてったかなあ、アノ先生なあ？その古文書をあつちであれしてたのね。でもね、それねえ、気仙沼のひとが全部訳したのね、古文書専門にやってるひとね。小学校の先生やってる人ね。そうずっと米何俵とかね、そういうの記録にのってた。

宿浦で昭和8年のときに海に向かって右側は流されたけど、早馬神社側は流れたの。こっちは流れねかつた。もし流れたんだあればね、その古文書も何もね。

高校生活・娯楽

—話者は宿浦から客船で気仙沼に行っていた？

気仙沼水産(高校)に行くときに乗っていた。あそこ客船1か月の定期が50円だったけどね、その定期買わねえで気仙沼まで歩いた。映画3回か4回見れたんだねえ。だから山ね、山歩いて峠ね。わたし石浜だったから陣ヶ森から。気仙沼に3軒あつたのなあ。鼎座(かなえぎ)ってとことね、あともう1軒がね、なんだったっけなあ。なんだったか。

—(宿浦の)中央座とかではなくて

学校ね、あのほら途中で帰ってきて。おもしろくねえ授業とかあつとね。映画さいく。唐桑の映画なんておもつしろくねえんだもん。気仙沼だつと切れねえ(フィルム)けど、唐桑だと途中で切れたりして。

—じゃあ高校時代は街場に。

映画見るか、あとはそば食べっかね、唐桑ではおそばなかつたもん。何にもねえもん。そばとうどん屋しかねえんだね。その当時は、甘いものっていうのはねえ、わたしほら弁当家でつくってコッペパンにジャム入ってるやつ1個買って食べたりしてね。

—高校では科がわかれていた？

漁業科と製造科ふたつしかなかつた。製造科っていうのは缶詰つくったりね、カツブシやつたりね。

—カツオブシだったらお家でやっているとところは見てたらわからないのか？

ふつうのどこさいたらね、カツブシ削るたらね、売りモンなるから。学校だったら売り物ならなくてもいいわけだ(笑)。漁業科では船長なるために漁業科入るんだね。漁業科なんか出なかつたって船長なつてんだけど。あのねえ、いいとこいったのね、最初ほれ、海上保安庁いったり、商船会社いったり、いいとこいったのね。サケマスも景気のいいとき。ニッスイ、ニチロ、マルハなんていったの。優秀な人たちね。

—高校に行く前に船に乗ったことは？

アワビだのウニとったりしょっちゅう行つたの。親父とるの見ててね。

—いつも取る場所ってあつたか？

アワビのいっとことウニのいっとことか大体わかん。うちの親父が行くところ。他の家でもよその家でもアワビとってるねえ。船集まってるから。そうするとああ、ここにアワビあんだかつて。

—根のところに集まってくると早いもの勝ち？

うまい人は何十キロもとるしい、へたな人はあ、何十個ととらない人もあるよ。

—近所でわけた？

昔やつたの。今はそんなのやらないけどね。

漁獲物のおすそ分け

－マグロ漁から帰ったらマツル（報告者注：おすそわけ）？何軒くらい？

シンルイにね。

－サクであげる？丸まま？

マグロの場合ね、いいものは傷のつかねえのは市場へ投げんのね。サメが食べるんです、マグロね。全部が全部じゃないけども、1日10本くらい食べられてくんのかなあ。しっぽの方たべたり、お腹の方食べたり。それを持って帰ってくるの。

－マツる魚を持って帰ってくる時容れ物は？

いやいや。そのまま凍結、固めっちゃ、マイナス40度かなんかでね。それを適当に切って入れとくんだね。あとそれをね、分けて。そんなサメに食われたやつね、市場にあげたって大した値段じゃないからね。

－マツル魚どれくらい持って帰ってきた？

結構あったべなあ。20キロくらい。いいものは全部市場さあげて、そんなのは持って帰って。持って帰るときは車で。

－親類にマツルとき早馬や地福寺に持っていく？

地福寺には持っていかないけども、早馬神社には持っていったの。刻みじゃなく、丸のまま。傷のついてないやつ。

－早馬神社の人は魚をたくさんもらって大変ですね。

昔は食べきれないから。

－ドンコ（エビス講のときに供えるので）を早馬に持っていったことは？

ドンコたらどこでも釣れんだ。エサもなにかサンマでもサバでも切り身やったら。ドンコもってったことねえべ。食べたくなったらつって食べたの。

－早馬神社に供えることは他にあった？

船行ったときだけ。帰ってきたときだけ。

神輿渡御と旧家

－「西」は地福寺に縁があるけど早馬に行くことの方が多い？

（早馬神社の）お祭りのときね、神輿ってありますね、その神輿を昔から四家（シケ）ってね、四家っていうのはね、その四人の家で、その門門（かどかど）について歩いたの。それわたしたちも西でもやってたのね。

西とね、あとね、上宿（かみじゅく、屋号）ってね、そこの家とね、あとねあの一、あそこのホレ馬場のね、柿の上（かきのうえ、屋号）っていうとこ。そことね、あとね、中井の隠居（屋号）。よくエンチョウしろっていうっちゃね。エンチョウ（隠居）ってね、家督をゆずって。その四家が上下（かみしも）を着ておまつりのとき一緒に歩く。

－西（にし）と上宿は宿にある？上宿は良護院のシンルイ？

菅野っていう家だけだね。で家歩くと、行列つくって歩くと、神輿の両端。

－場所には決まりがある？

んーただ適当にやってんだね。

－四家の人たちは神輿の船にのる？

そう。おわりまで。

－話者はそれをやっていた？

いま津波あがってね、カミシモから何から流されたっちゃ。中の草履だの羽織だの買おうと思ったらね、40万かかんの。京都でそういう店あんのね。でも今40万だしてねえ…。

－四軒の家はどこも古い？

ずっと何百年もそういうことやってんだ。御崎（オサキ神社）ではなんにもやってない。

—西の家が動いたのは 400 年ぶり？

だってどこさまも行くところねえもん。ここのとこで家売りだしてたから、どこさまもいくところねえから買ったの。

—防潮堤で海が見えなくなったら？

見えなくてもいいんだね。安全であれば。

地藏菩薩の掛け軸

—西の家でもっていたのものは文書以外にあったか？

昔からあったのね、あの一、掛け軸ね。掛け軸であのね、あったのね。大分県かどこかのね、絵師描いたね、山水の掛け軸あったんだね。表具したっけね、そんなようなのね、結構あったね。あと瀬戸。皿ね、結構いいのがあった。わたしわかんないけどね。

—蔵にいれていた？

家の一番高いところね、入れてたのね。押し入れの上到天袋ってあんのね、そこに。あの人なんだっけなあ絵描きのなあ。あと津波の流れる前にね、お寺さ 1 本やったのね。地福寺さね。なんでやったといえね、それ、絵がね、お釈迦様の絵だと思ったのね。そしたらそれお寺さもっていったら地藏菩薩だったの。それ、表具屋、表具してもらったらね「これ立派な掛け軸だな」って。それお寺さやったのね。やっていがあったや。家さ置いてたら流れたからね。

—なんでお寺に？

わたし、昔その掛け軸っていうのは仏間に掛けてたんだね。いま津波流れるったってね、その掛け軸かけてるっばなんであれば、かえて家さ置いてるよりも、お寺さん掛けてもらってみんなに見てもらったほうがいいなって思ってたの。

—今も地福寺にある？

何回も行ったけどもね、飾ってはないね。そってあとね、お寺にあったあのね、よく掛かってんだね、ダルマさんがね。すっかり同じものがあったの。そのダルマ描いた人がね、ダルマだけ描いてね、この周囲にねお寺建てた人なんだって。だから泊まって描いたんだね。

—お坊さんがこっちにきて描いたダルマ？それももう一つの方は地福寺にある？

地藏菩薩はね。

家の歴史、分家について

—いつ頃からのお家だと聞いていたか？江戸時代よりも古いと聞いていたか？

だってねえ、系図書見ると慶長系図。三浦半兵衛って人が亡くなったのが元和 2 年なんだ。地福寺って言うのは新しいんだ。福島かどっかからきた人が、舞根ん峠で休んでたのをうちの先祖が連れてきてお寺建てさせたって。300 年くらいはなってるんだけど。すっかりわかんねえけど。昔休んでたんだって、あそこでね。その当時はねお寺さあったんだねもう 1 軒。「寺釜（テラガマ）」ってね、舞根にね。あの辺になんかよくわかんねえけどお寺あったって聞いてんだけど。

—お盆のときは分家が西の家に来ていた？

毎年ね、来ていたんだけど今年はなくなったの。お盆に来てたね。あのね。ここうちのね、一番の分家っていうのは、崎浜にあの「古桑家（コガラカ）」つつう屋号があんのね。そこが一番ね。そこにね、西の家から兄弟が分家になってんの。古桑家の隣りに、「隣（トナリ）」っていう屋号の家が、ね、下の方に「田端（タバタ）」っていう家がね、3 軒が分家。その人たちがね、みんな地主なの。3 軒だから。昔は正月にはご年始にきたけどね。今は新暦で。

—西の墓も参る？

今はなくなったんだねえ。昔の人はしたんだろうっけけどね。そうそう、古文書なかなか返ってこなくてね。教育長やったひとがわたしの親類だったのね。ここうちの分家の人が、助役やっててであと、「古唐家」っていう屋号の人は収入役。文書返してくれていってくれたの。わざわざね、たいしたこともかかって（書いて）ないのに

(笑)。東北大もコピーみたいなのはとったんでねえのお。あとね、ここの家の西のあれがね、名家 500 軒っていうのに入ってんだね。何にもねえんだけど入ってんだね。

調査者注

400 年ぶりに移動した西の家は、早馬神社も地福寺も双方の祭礼を支えてきた家であった。この家にかぎらず、流失した家々が祭礼にどのように影響を及ぼしていくのかについては、今後の展開が待たれる。しかし宿浦にとっては、これまでくりかえし訪れる津波のたびに経験してきた課題であるのかもしれない。